

申請者: 李 京柱

論文題目 Institutional Changes and Governance System:  
The Development of Electronic Marketplaces in the U.S. Airline Industry  
(制度変化とガバナンス・システム: アメリカ航空産業における電子市場の発展の歴史から)

審査員 軽部 大  
Funk Jeffrey Lee  
田中 一弘

本論文は、アメリカ航空産業のコンピュータ予約システム(CRS: Computer Reservation System)の40年間の歴史を事例研究の対象にして、制度としての電子市場の生成と変化のプロセスを歴史的に検討し、その背後のメカニズムを政府、航空会社、旅行代理店、CRSプロバイダー等の異なる主体間の社会的・政治的・経済的相互作用に注目し、ガバナンス・システムという観点から説明を試みたものである。本論文の基本的な問いは、公共財的な性格を持つ市場制度としての電子市場が、どのような行為主体のどのような意図を通じて、また、行為主体間の多様な相互作用を通じてどのように形成・変化するのか、というものである。

そのような問いに対して、本論文は具体的には、第2章で技術変化と制度形成に関する先行研究を検討し、第3章では制度形成・変化プロセスをガバナンス・システムの変化と捉える説明フレームワークを提示する。第4章ではアメリカ航空産業のコンピュータ予約システムの生成と変化の歴史を6つの期間に分けて詳細に検討している。第5章ではガバナンス・システムの変化という観点から事例の解釈が行われ、第6章では結論と含意が述べられている。

本論文が評価されるべき点として、第1に技術と市場制度の共進化という問題に対して、両者が交錯する電子市場という格好の研究対象に注目し、その詳細な事例分析を試みた点が挙げられる。この分析によって、情報通信技術の進歩とその技術的成果が、単線的に市場制度としてとり込まれるわけでは必ずしもなく、むしろ多様な主体間の主として政治的なプロセスによって決定されることが明らかにされている。第2に、詳細な事例分析を通じて、個々の電子市場の効率性が、異なる電子市場間の競争を通じて実現されたことが明らかにされている。このことは、電子市場内の企業間競争や政治的な決定プロセスのみに委ねるだけでは、制度としての電子市場の効率性は維持されず、制度間競争の存在があってはじめて維持されるということを示唆している。また、電子市場内の競争のあり方は、異なる電子市場間の競争に依存している、という興味深い問題を本論文は提起しており、この問題は市場内競争と市場間競争の相互依存関係、という展開可能な概念を含んでいるという意味で、評価されるべき点であろう。

本論文の問題点としては、次の3点があげられる。第1に、先行研究の記述が羅列的になっている傾向が見られ、ガバナンス・システムとの概念的な接続が弱い面が見られるという点である。第2に、事例分析を踏まえて行われる第5章の理論的検討が、十分に整理し切れていない面がある、という点である。第3に、単一事例であるために、米国という特殊性や既成産業の持つ特殊性を十分に検討し切れていない。そのために、本論文の主張の一般化可能性について、十分に検討されていない点がある。もっとも、これらの問題点は、今後の研究活動を通じて明らかにされるべき課題であり、上記の長所を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定に準じた取扱いにより一橋大学博士(商学)の学位を受けるに値するものと判断する。